

俳句の授業の導入で、児童に「俳句と聞いて思いつくもの」を尋ねることがあります。「五七五！」「季語を入れる！」「リズムが大事！」等々、期待通りの答えが返ってきます。そのような中、「江東区！！」と叫んだ児童がいました。元気な3年生でした。「えっ?!」とこちらがびっくり仰天するような反応でした。「江東区の俳句教育」ではなく「俳句の江東区」と児童から自然に出た言葉に感動しました。

俳句教育の良さとして、①発見力や表現力を高める ②感動する心や共感する心を育む ③短い時間で取り組み、みんなが活躍できる などがあげられます。本区の「まなびスタンダード（国語）」にも「季節を感じ、俳句に親しむ」とあり、すべての小中学校で取り組んでいます。俳句授業への講師派遣事業は、12年目となりました。これからも児童の心に広く深く根付いていくことが期待できる出来事でした。



夏休み中に、芭蕉記念館や清澄庭園などで「親子俳句教室」や「小中学生俳句サロン」等が催されました。左の写真は、江東区教育センター中庭の「百日紅（さるすべり）」です。街路樹や公園、校庭にも見られます。白い花の百日紅もあります。

芭蕉記念館の池に浮かぶ百日紅も趣があります。百日紅を見た児童が「名前の由来の一

つに百日間咲き続けるからということがある」と知り、

『芭蕉庵あと二か月の百日紅』と詠みました。柔らかな感性、素直なまなざしに癒やされました。

夏休み明けの俳句授業も始まりました。楽しみです。

